



西神戸医療センター（病院紹介）

藤田，勝三

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 14:162-162

(Issue Date)

1998-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007585>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007585>



西神戸医療センター

副院長 藤 田 勝 三 (43年卒)

当病院は神戸市の人口急増地域である西地域の中核的病院として、また神戸市立玉津病院の結核医療を継承して4年前に神戸市長を理事長とする第三セクターの病院として開院した。今まで地域の医療ニーズに対応できていない高度医療を要する疾病などを対象にした急性期病院として、また西地域の救急の中核病院として、地域の医療機関や、神大付属病院、中央市民病院などの3次救急医療施設との連携の下に24時間体制で救急患者を受け入れている。

特に当病院が力を入れているのは、市民が適切で継続性のある医療を身近な地域で受けられるようにするため連携システムを取り入れ地域の医療機関と密接な連携を進めている。この目的のために院内に地域医療室を設置し、地域の医療機関との協力の下に、患者の紹介、逆紹介などの連携に取り組んでいる。

病床数は、結核病棟100床、一般病棟400床（ICU、CCU 10床、救急病棟25床を含む）計500床で、診療科目は心臓外科を除く全科を有する総合病院である。本病院の建築上の特徴として、4床病室により個室的感觉を取り入れるため、4床各々に固有の窓と分散トイレの方式をとり、また各階に患者用食堂を配置し、病院での療養生活に快適さと利便性を配慮した方式が取られていることである。

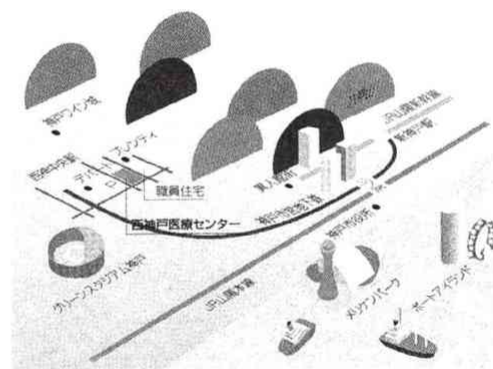
現在の藤堂院長は、消化器内科を専門とする京大出身の先生で、副院長は私と小児科を専門とする京大出身の馬場先生で、この3人で臨床面での運営を行っている。医師のスタッフの構成メンバーは、内科、外科、眼科、整形外科、泌尿器科、小児科の部長は京大出身者が、脳神経外科、産婦人科、皮膚科、放射線科、麻酔科、神経科、病理科の部長は神大出身者が占めているが、医師の中には他大学出身者も多く出身大学には関係なくお互い切磋琢磨して臨床に励んでいる。医師数は昨年より研修医制度が厚生省より認められ6名の研修医を公募して採用し現在では90名の医師数を数えるに至っている。

日常の診療面では、西区は震災後神戸市の中で最大の人口を擁する地域であり、また病院の設備も近代的であることから震災後患者は急増し、現在では一日の外来者数は1,500名をこえており、またベッド稼働率も一般病棟では95%をこえ当初の予想を遙かにこえる

患者数のため、スタッフは毎日多忙な病院業務におわれている。

この急増する患者数に対応するため、今年度の予算で外来棟を増設する予定であるが、垂水区に液済会病院が13年度に移転し、長田区には西市民病院が12年度に再開予定になっているので、この病院の規模にふさわしい患者数で安定することを願っている。

最後に、神緑会の先生方をお願いしたいのは、神戸市が建設した病院に神戸大学出身の先生が今回のように多数就職したのは初めてのケースであり、その意味で我々は地域医療に専念して地域住民の方に適切で且つ良心的な医療を提供することにより、地域の住民の方々と神戸市職員の方々から信頼を得るべく努力しておりますので、これからも変わらぬご支援とご指導をお願いします。



交通手段

●在来線等をご利用の場合

JR、阪急、阪神電車 各「三宮」駅下車
神戸市営地下鉄「三宮」～「西神中央」(約30分) 徒歩約5分

●JR新幹線をご利用の場合

「新神戸」駅下車
神戸市営地下鉄「新神戸」～「西神中央」(約35分) 徒歩約5分